

## 菊池溪谷の植物多様性

菊池溪谷は植物の多様性で有名。4km の溪谷の端から端まで標高差があるため、気候条件は多岐にわたる。溪谷の下端は標高約 500m、起点は標高約 800m に位置する。溪谷を登っていくと、植生は常緑広葉樹の森林から落葉広葉樹の森林へと徐々に変化し、上流部ではブナ林を主とした森林になることに気づく。菊池溪谷には 750~800 種、そのうち 250~300 種の樹木が生育していると推定されている。

溪谷の下流域は暖帯林である。濃い緑色の葉は香りがよく、光沢があり、3 本の葉脈が特徴的な**ヤブニッケイ** (*Cinnamomum yabunikkei*)、硬い革質の葉の裏側が白っぽいことからその名がついた**ウラジロガシ** (*Quercus salicina*)、3 月から 4 月に赤い無花果の花を群がり咲かせる**イスノキ** (*Distylium racemosum*) などがある。中腹にはケヤキやモミジなどの落葉樹やスギが多い。紅葉ヶ瀬付近には、1823 年に大名が建築資材として植えたという大杉の林があり、注目される。

溪谷の遊歩道が終わる広河原を過ぎると、モミや観賞用として人気の高い、外側の枝に赤褐色の小さな球果ができる**ツガ** (*Tsuga sieboldii*) などの針葉樹、そして鋸歯の密集した葉と、時に「筋肉質」と形容される滑らかで逞しい幹を持つシデの一種である**イヌシデ** (*Carpinus tschonoskii*) という落葉広葉樹が生える。ブナや**ミズナラ** (*Quercus crispula*) などの落葉樹は、平均気温が暖帯よりかなり低い山の上で見られる。

溪流沿いの湿潤な環境に生育し、溪谷内の木の枝や岩に 20cm ほどの大きさになる糸状の鮮やかな緑色の**キヨスミトゴケ** (*Barbella flagellifera*) や、湿った岩を好み、タバコ葉に似た大きな葉を持つ**イワタバコ** (*Conandron ramondioides*) などが散策路でよく目にすることができる。イワタバコは夏に薄紫色の星形の花を咲かせる。